

パヌニーヨットで行くデワラン・サンガラキ諸島の豪快&楽々クルーズ!

# Derawan Sangalaki Cruise

## アジア最後の秘境クルーズはいかがですか?

アジアのダイビングディステーションでどこに残された秘境はないか?

と、お探しの皆さん! 朗報です。

デラワン サンガラキクルーズはいかがですか?

インドネシアのカリマンタン島の東で、広範囲に点在するデラワン、

カカバン、サンガラキ、マラトゥアのダイビングエリアを

贅沢なダイブクルーズ・パヌニーヨットで快適ダイビング三昧。

注目のデラワン サンガラキの楽々クルーズ!

第2弾の乗船レポート!

Photo&test : Yasuaki Kagii

Special thanks : World Tour Planners Panunee Yacht

Design : tomato



パヌニーヨットの全貌



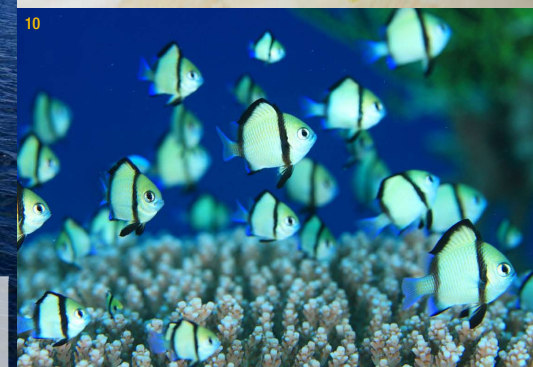


**チ**ェックダイブから始まったデラワンでのダイビングは、マクロの生き物を中心に観察するスタイル。ポイントの地形はどれも似ていて、浅瀬は豊かなサンゴ礁が広がり、水深約15mまではサンゴのパッチリーフや根が点在する緩やかな傾斜が続く。その先は-30mまで平らな砂地の広がっている。見られる生き物は、メタリックシュリンプゴビー、ヒレナガネジリンボウ、ホタテツノハゼなどのハゼの仲間を初め、ジョーフィッシュやワニゴチ、ハナイカなど。また、ウミウシの種類も多く、今回はキバのようなデザ

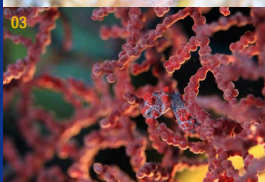
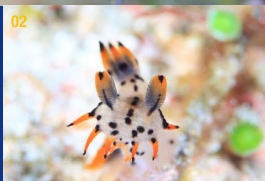
インを持つピカチュウウミウシとご対面できた。これはなかなかのレアものである。その他にもインドネシアでは定番だが、ピグミーシーホースなどの人気種も確実に見せてくれる。基本的に潮の流れも緩やかで、地形も簡単なので、初級者のダイバーから十分に楽しむことができる。中層では、ユメウメイロとムレハタタテダイなどが群れているが、ガイド先導のもとマクロの生き物に執着するダイビングに夢中になる。次々と小さな生き物を披露してくれるので、まるで海底の宝探しに参加しているようで楽しい。



07/青い緑のかわいいコブシメ  
08/タコベラが縄張り争いをしていた  
09/かわいい表情のクマノミの幼魚



10/フタスジリュウキュウスズメダイの群れ  
11/クリーニングを受けるドクツボ



デラワン島

Derawan Island

4島、それぞれの違い海を味わい尽くすパヌニーヨット  
まずは、マクロの生物の宝庫・デラワン島！

01/ホヤを食べるウミウシ  
02/牙のようなデザインのピカチュウウミウシ  
03/擬態上手なピグミーシーホース

04/寄生虫が眉毛のようなシマキンチャクフグ  
05/固有種のデラワンブレニー  
06/デラワン島でのダイビングを終え、ディンギーでクルーズ船に戻る





3本目のダイブの後、オーナーで水中カメラマンでもあるジャクリンさんが、「こここのナイトダイビングはとても面白い!2時間でも潜れるくらい!」と絶賛。まずは、ニシキテグリの放精放卵を観察。サンゴのガレ場の間からたくさん姿が見える。そのなかの2匹が寄り添って浮上を開始する。3度もフラッシュを焚きフライデーしてしまった。その他にブダイの寝姿、ウミウシ、エビ、カニなどの甲殻類を楽しんでいると、頭上を大きな物体がかすめる。なんと!2m級のアオウミガメだった。「ワイドレンズのカメラも持ってくれば良かった……(涙)」。そして、ダイビングの後半、別のグループはなんとミミックオトトバスを見つけたとのこと……こ

れまた涙。結局1時間以上のダイブタイムで初日、最後のダイビングを終えた。充実したダイビング始まりとなった。

### ナイトダイブも面白い!

今回の取材中、サンセットダイブ及びナイトダイブを4回行った。デラワン島でのニシキテグリの放精放卵を初め、マラウア島でのミミカ、トメソデエビなど日中とはまた違った生き物に会える楽しい時間だった。約45分の潜水時間を大幅に超えて、60分以上になることもしばしば。ゲストダイバーは時間を忘れ、夜の海に夢中で潜りこんでいた。

ナイトダイブまで  
魚まみれのクルーズライフは続く

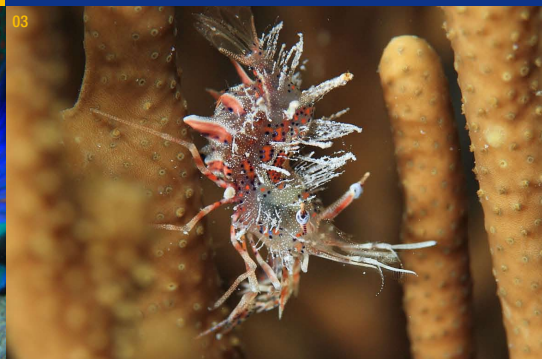
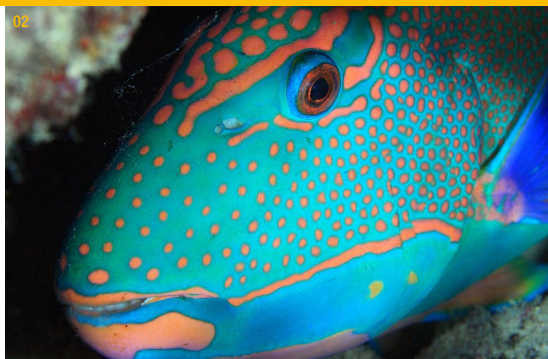
Derawan Island

01/寄り添うニシキテグリの愛の儀式  
02/イロブダイの大胆な寝姿

03/珍しいトメソデエビを見せてもらった

04/かわいく変色するミミカ  
05/寝ぼけたアオウミガメ

06/変色したジョーフィッシュ  
07/ウミヘビの仲間も顔を出す



暮れ色に染まる空に浮かぶバナニヨット

アジア最後の秘境クルーズはいかがですか?

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter



Information Link < 関連情報HPへ >  
<http://www.wip.co.jp/area/derawan/index.html>

クラゲを撮影できる  
天然のジオラマ・スタジオ  
フィッシュアイレンズで  
不思議な空間を絵にする

カカバン島

K a k a b a n I s l a n d

木漏れ日のような太陽に光が美しい水中景観

アジア最後の秘境クルーズはいかがですか？

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter



Information Link <img alt="external link icon" data-bbox="915 930 935 945"/> 関連情報HPへ  
<http://www.wip.co.jp/area/derawan/index.html>



01

01/ 湖へのトレイルで出会った美しいヘビ  
02/ 湖底でもこんなにカラフルなヒラムシの仲間に出会える  
03/ みんなでトレイルを歩く



04

04/ 珍しいハゼもたくさん見かける  
05/ エントリー場所はこんな様子



捕食に夢中だったハゼの仲間

イソギンチャクの捕食から逃げようとするタコクラゲ

## パラオのクラゲ湖とはまた違う面白い環境 カカバン島のジュエリーフィッシュレイク

2日目、午前中に1本ダイブを終えて、カカバン島のジュエリーフィッシュレイクに向かった。栈橋から木のトレイルが島奥の湖まで続いている。徒歩にして約5分の道のり。湖の規模は大きく、パラオのジュエリーフィッシュレイクの何倍もある。エントリーして、湖縁のマングローブ沿いに泳いでいく。浅瀬はマングローブの根が四方に伸び、海藻などが砂塵の海底を覆っている。辺りにいるクラゲは、ふわふわと泳ぐことなく、海藻の上や海底にたくさん着地している。いくつかの元気なクラゲが時折、傘を活発に動かしては、水中に向かってテイクオフをする。マングローブの木漏れ日が水中に飛び込み、教会のような美しい空間を創造する。そのなかでいくつかのクラゲが揺らめく。クラゲ

の数ではパラオのジュエリーフィッシュレイクには負けているが、カカバン島のジュエリーフィッシュレイクは、この木漏れ日など活用した幻想的な風景を楽しむことができる。

また、海底には花のように白いイソギンチャクがいくつも触手を開いて咲いている。よく見るといくつかのクラゲが捕まり、飲み込まれそうになっている。イソギンチャクに引っ込まれそうになるクラゲが、全身を活発に動かし、イソギンチャクから逃げようとしている。ただ漂っているだけだと思っていたクラゲは実は死に直面し、それから逃げ出そうとしていた。意外な一面だった。また珍しいハゼの観察もこの湖の一興である。



カカバン島

K a k a b a n I s l a n d

アジア最後の秘境クルーズはいかがですか？

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製・二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter



Information Link <http://www.wtp.co.jp/area/derawan/index.html>



01/ 青い海を飛行するブラックマンタ  
 02/ バンダ顔のようなクラカオチョウチョウウオのペア  
 03/ 面白いデザインのモンガラカワハギ



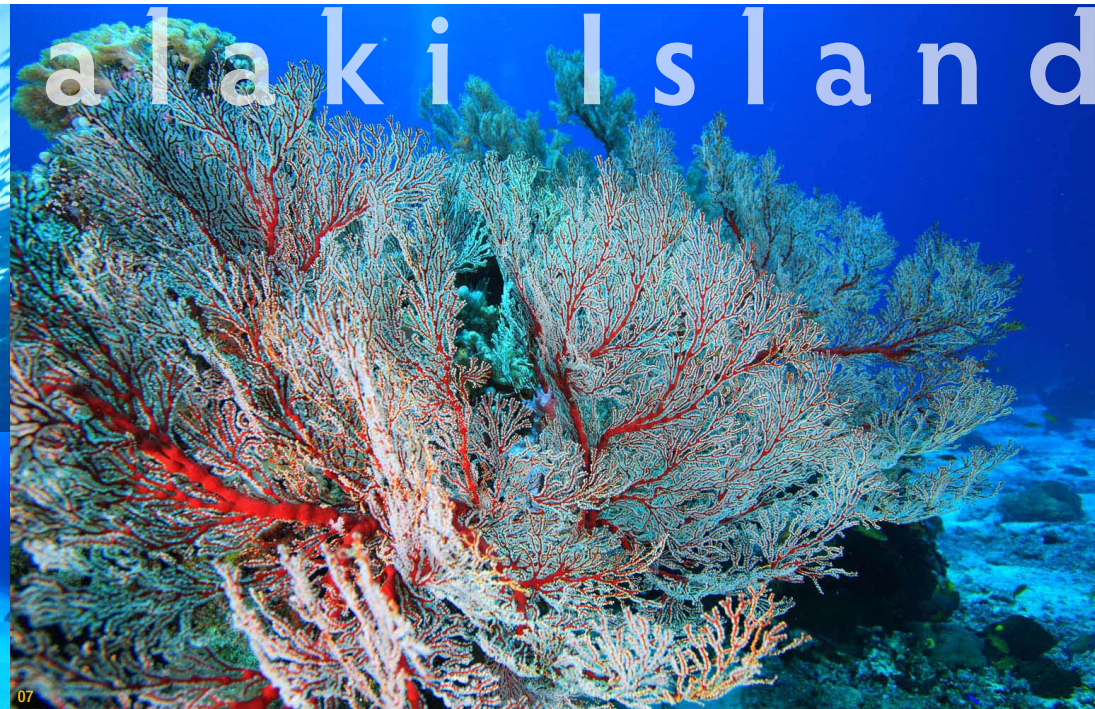
## サンガラキ島



04/ 大きな翼を広げるマンタ  
 05/ トサカリュウグウミウシが顔を上げる  
 06/ 真っ白な砂地の上を泳いでいく  
 07/ 真っ赤なイソバナがゆらゆらと揺れている

05

06



07

2日目の午後は、サンガラキ島に到着。早速、マンタポイントにエントリーした。細長い白い砂地の上を潮の流れに乗って進んでいく。大きなアオウミガメやトラフザメ、ヤマアラシエイなどご対面し、イソバナやカイメンに彩られたジャングルのような海底を見下ろす。ガイドの動きが俊敏になり、彼が指す方向を見上げると、水面下の水色に上手く溶け込んだマンタが泳いでいる。それほど大きな個体ではないが、大口を開けて捕食しながらゆっくり泳いでいる。ゆっくり近づいて撮影を完了すると、更にガイドが海の向こうを指差す。今度は分かり易い個体だった。お腹の黒いブラックマンタだ。同じような大きさの個体で、彼も捕食中だった。これまたタイミングを見計らって撮影。実はこのマンタとの遭遇までに実は興味深いことがあった。そ

れはガイドの行動だった。ガイドのマディはマンタを探す段階で時折、潮の流れに逆らってグイグイと泳いでいく。まったくマンタの影も見えていないのに、当たり前のようにみんなを先導する。そして、彼の指す方向に微かにマンタが泳いでいる姿が見える。「どうしてマンタの場所がわかるのだろう？」と海中で不思議に思っていた。ダイビング後、彼にその理由を聞いてみると、「経験でだいたい分かる。この潮流の時は、この辺りに出るんじゃないかな？予測するんだ？」とのこと。これまで国内外の色々な場所でマンタポイントのガイドしてもらったが、今回は、かなり匠を感じさせるガイディングでとても関心をした。彼に付いていけば、必ずマンタを披露してくれそうだ(笑)。

サンガラキ島の白と黒のマンタ  
 匠のガイディングで遭遇率がアップ!



最終目的地・マラトゥア島のポイント  
「The channel」  
クルーズのハイライトは  
天上を駆け巡るバラクーダの竜巻！

マラトゥア島

まるでひとつの生き物のよう  
に形を変えていくバラクーダ  
の群れ

# M a r a t u a I s l a n d

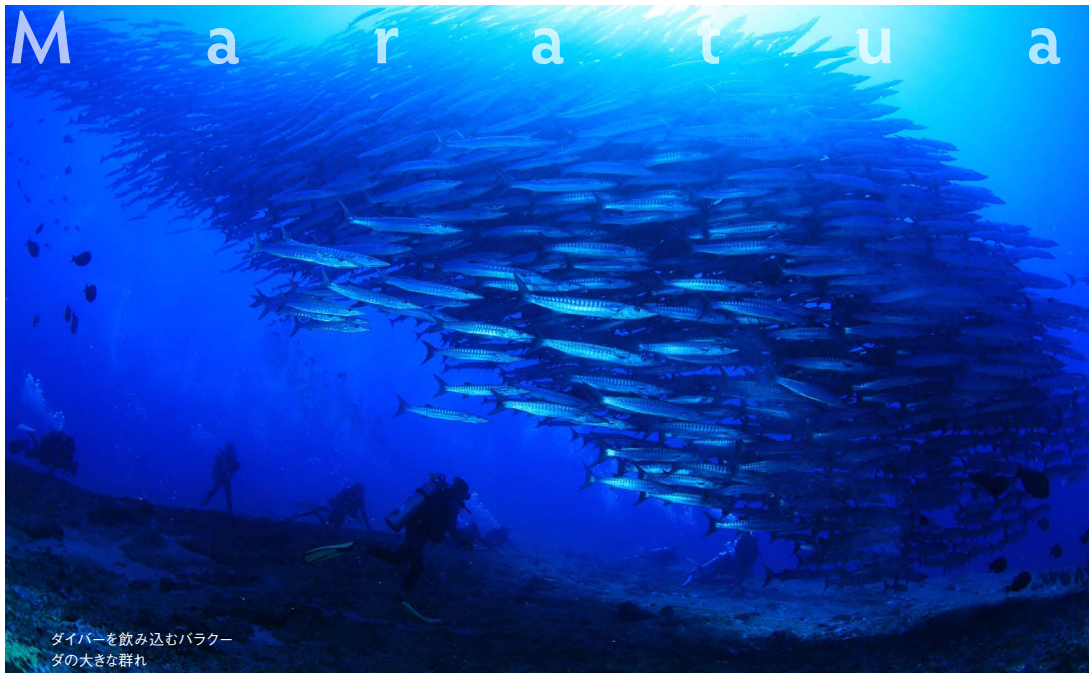
アジア最後の秘境クルーズはいかがですか？

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter



Information Link  関連情報HPへ  
<http://www.wtp.co.jp/area/derawan/index.html>



ダイバーを飲み込むバラクーダの大きな群れ



美しいサンゴの広がりも身所のひとつ

マラトウア島でのダイビングのハイライトは「The channel」というポイント。マラトウア島のある環礁の唯一のチャンネルでのダイビングとなる。水路がひとつのために、潮の干満の確認してエントリーする。環礁内に潮が流れ込むときがタイミングとなる。目的は、何とて言っても、ブラックフィンバラクーダの群れ。万も持って数えるバラクーダの群れがその水路の入り口でござり「たむろ」している。外洋のリーフからエントリーして潮の流れに乗って、ゆっくりと水路まで進む。そうすると今までに見たこともないような大きな球体がこちらに迫ってくる。まるで未知なる惑星のような、いや力強く渦巻くブラックホールのようにバラクーダの群れだ。1匹1匹は頭部の尖った魚だが、何匹も重なり大きな美しい弧を描きながら、宙に浮かんでいる。海底に捕まり、頭上を見上げるダイバーを飲み込むように覆い被さる。その時、黒い物体そのものがまるで生き物のような動きに見える。時折、トルネードになり、帯状の雲になり、大きな球体に変化しては、全てのダイバーを受

け入れるようにゆっくり水路内の空間を行き来する。バラクーダの群れを眺めているだけで十分に迫力があり、時間を忘れることができる。また、群れにダイバーが突撃したときが、これまた面白い。大きな魚群とダイバーが空中で相塗れる。そして、これまでに見たことのないようなスケールの大きな景色が現れる。秘境と言われるデラワン、サンガラキの海にやってきた甲斐があった。こんなバラクーダの群れは見たことがない。これは本物の感動だ。

その他にも、サメが見られる可能性のある「Mid Reef」やカムリブダイの群れが見られた「Fusilier Paradise」などがある。ドロップオフのポイントでは、スマレナガハナダイ、アケボノハゼ、ハナゴンベ、オドリハゼなどが見られる。壮大な景色を創造する「The channel」とマク口の生き物が美しいポイントを堪能する2日間のダイビングとなった。

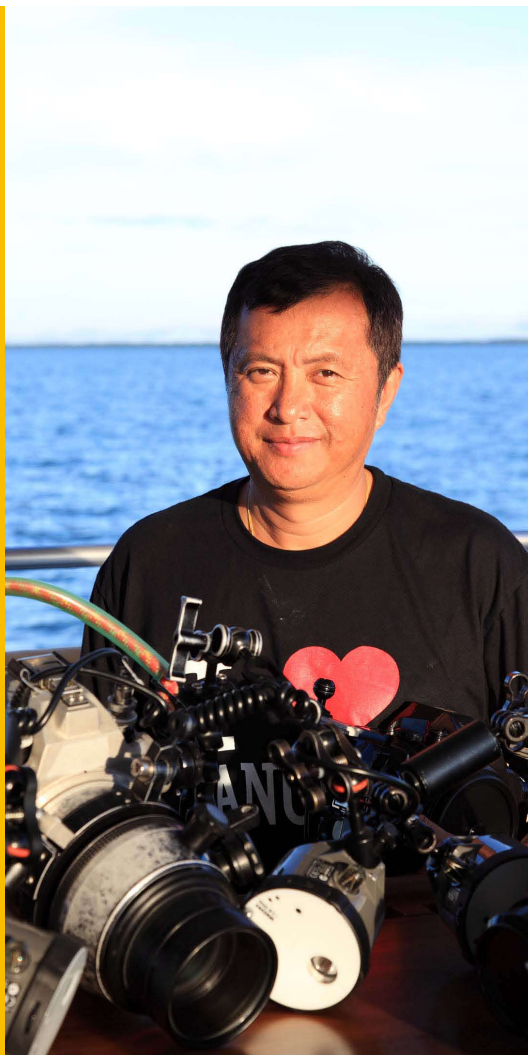
こんなバラクーダの群れは見たことがない！最高だ！  
秘境と呼ばれる海にやってきた理由を確実に見つけた！



01/可憐なヒオドシペラの幼魚  
02/根強い人気のアケボノハゼ  
03/オレンジ色がよく目立つスバインチークアネモネフィッシュ

04/岩陰からいつも見つめるパープルティーパーク  
05/少し深い深度で見つかるトサヤッコ(雌)  
06/クリーニングを受けるスマレナガハナダイ





愛用の水中カメラ機材とジャクリン

### デラワン島

島の浅瀬に生息するジョーフィッシュが良い被写体だと思います。個体数も大変多く、また水深も他のエリアに比べて浅く、10～15mくらいでよく見られます。また、デラワン周辺の個体はあまりシャイではなく、とても撮影がしやすいです。そして、なんとと言ってもジョーフィッシュのハッチアウトが見ものです。月に1回、満月の後の5～10日後が狙い目です。今までの経験から、8・9日後でのハッチアウトの可能性が高いです。オスが口内保育をしますが、最初、卵は黄色で、クリア色の変化し、子供たちの眼などが透けて見えるようになります。時間帯は早朝の5時30分～6時までで、日の出の頃にはハッチアウトは終わっています。他にも薦めの被写体はベラです。特にフラッシャーは、2フィン、5フィンが見られます。インドネシアの他の地域よりも浅い深度(15m～18m)で見られるので、ストレスが少なく撮影ができます。あとは、ハゼですね。メタリックシュリンブゴビー、ホタテツノハゼ、オドリハゼなどたくさんの種類が見られます。デラワンは桟橋付近に面白いマクロの生き物が多く、そこが撮影のポイントだと思います。

### カカバン島

カカバン島では、やはりジュエリーフィッシュレイクですね。湖の縁に部分、マングローブの根が水中に張り出している辺りの浅瀬が撮影のポイントだと思います。太陽の位置が高いときは、マングローブの木漏れ日が水中に白い光線となり、飛び込んできます。とても幻想的な世界にクラゲが漂う景色が広がります。また、リクエストがあれば、タン

クを付けて撮影することもできます。タンクを運ぶのは大変ですが……(笑)。カメラのレンズは広角のフィッシュアイレンズがお薦めです。また、レアなハゼの仲間などの撮影も簡単なのでマクロ撮影も楽しめると思います。

### サンガラキ島

まず、サンガラキにはたくさんの種類のチョウチョウウオの仲間がいます。それにベラの仲間も大変多いです。種類も数も多いのでこれらは撮影が楽しいです。そしてやはりマンタですね。クリーニングステーションにやってくる個体の中で、たくさんのパイロットフィッシュを口の周りに従えてやってくるマンタがいるのですが、それもう素敵なお被写体です。私は、このサンガラキの海に約10年通っているのですが、これまでに何度も100匹以上のマンタとスノーケリングを楽しむことができました。彼らは捕食に夢中で私たちのことをあまり気にしません。それは本当に素晴らしい体験でした。クルーズ中にもそのような出会いがあることを願います(笑)。そして、カメも忘れてはダメですね。サンガラキ島はカメの産卵場ですので、たくさんのカメに水中で出会うことができます。あと、カニハゼもお気に入りの被写体です。

### マラトゥア島

ここは何と言ってもバラクーダの群れがお薦めです。潮の流れのタイミングが合えば、バラクーダが大きなトルネードとなって私たちを楽しませてくれます。彼らが方向転換するとき、尻尾でバン!という音が水中に響きます。それはすごいですよ。実は水路の中にバラクーダの群れはいくつ

かあって、それがひとつになるときがあるのですが、その壮大な景観は本当にすごいですよ。今回の取材で撮影したものの2倍はあると思います。是非、皆さんに見て、撮影して欲しいですね。これまでに、ギターシャーク、マダラトビエイ、ジンベイザメなどの大物も目撃しています。ポテンシャルの本当に高いポイントです。他にニタリザメが見られる「ミッドリーフ」のサンゴも美しいので是非、撮影して欲しいですね。

\* \* \*

あと、カメラやビデオで撮影される方は、スベアの機材を持ってくることをお薦めします。ほとんどの全てのクルーズがそうですが、一度、不具合が起きればカメラ屋さんには近くにないですから(笑)。今回、私も新しいカメラのソフトウェアを忘れて失敗しました……(笑)。また、保険をかけることも忘れないで下さい。私たちは安全に十分に留意してクルーズを催行していますが、万が一、ケガをした。または、減圧症になったとなれば、移送費、治療費などがここでは、高額になりますから。

とにかく、デラワン・サンガラキエリアはクルーズで巡るエリアとしては、とても適していると思います。リゾートステイのデイトリップならば、島々間の移動に時間を要しますが、クルーズならば、無理なく1日、4ダイブすることができます。是非、皆さんにこの素晴らしい海にいらして、思いっきり良い写真を撮影して欲しいですね。

ジャクリンの

デラワン サンガラキクルーズ フォトアドバイス

# Photo Advice

アジア最後の秘境クルーズはいかがですか?

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter



Information Link <http://www.wtp.co.jp/area/derawan/index.html>

01/ 陽気なクルー & ダイビングガイド陣



## 快適！ パヌニーヨットのクルーズライフ！

パヌニーヨットは、ダイバー専用のダイブクルーズ。ダイブデッキは広く、20名ものダイバーがセットアップできるスペースが十分に確保されている。またダイブデッキ周辺はシャワーの数などの配慮がなされているので、ダイバーにとって、色々と勝手が良い。

メインデッキのリビングルームは木の温もりを感じさせる空間で、ダイブクルーズの趣ではない居住空間のようで、とても寛ぐことができる。客室はスイートルーム2室、デラックスルーム7室、スタジオルーム2室で全室エアコン完備。特にスタジオルームに関しては、クルーズオーナーである水中カメラマンのジャクリン氏のこだわりを感じさせる。実際に使用してみたが、エアーガンが装備されているなど、フォト派の痒いところに手が届く客室となっている。

また、3度の食事&スナックもダイビングと同じくらい大変楽しみな時間だった。タイ料理がメインで、エビ、カニなどの海の食材を初め、豚、チキンや豊富な野菜で持て成してくれる。ランチにソーメンが用意されるという嬉しいサービスもあった。味は本当に美味しく、食べに過ぎに注意しなくてはならないと痛感……（笑）。また滞在中に一度、サンデッキではBBQパーティーが行われる。暮れ色に染まる水平線を眺めながら、みんなで美味しいお料理とお酒に舌鼓する。パヌニーヨットは優しい潮風に包まれながら、ゲストダイバーの笑い声がいつまでも響いていた。

パヌニーヨットは快適なクルーズライフを約束してくれる。



02/ 清潔で居心地の良いリビングルーム  
03/ カメラ派には嬉しいスタジオルーム  
04/ 広々としたスイートルーム



05/ 毎回の食事が、ダイビングと同じくらい楽しみ！

パヌニーヨットは、贅沢なダイバーのための海上居住空間だ！

# Panunee Yacht for Divers



06/ BBQパーティーで盛り上がり！



07/ 夕焼けの時間をサンデッキで過ごす。贅沢な時間

08/ 美味しい食材がどんどんグリルされていく



アジア最後の秘境クルーズはいかがですか？

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter

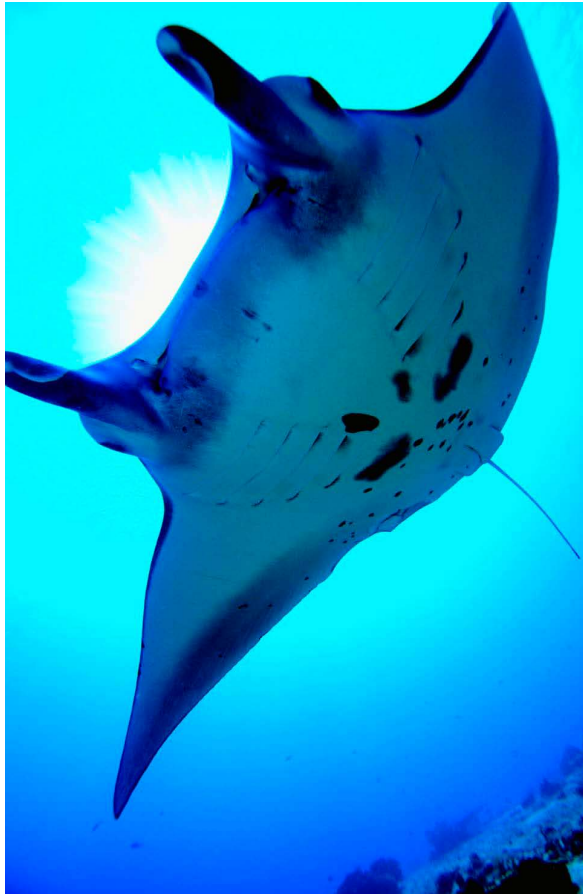


Information Link <http://www.wtp.co.jp/area/derawan/index.html>

1位

## 「サンガラキの海」

木村 和弘



**DATA**  
カメラ：ニコン D300  
レンズ：12-24mm  
ハウジング：Seatool  
露出モード：プログラムオート  
絞り：5.6

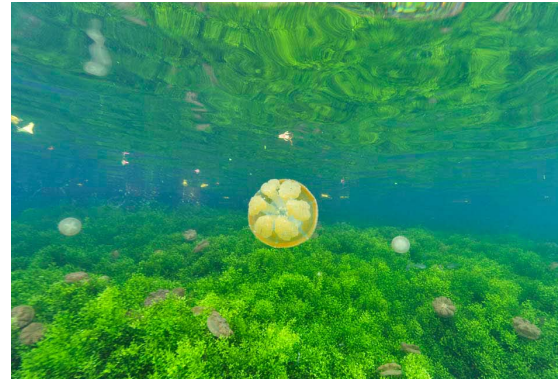
**商品**  
NEXUSカメラハウジング 1名  
対応カメラ：Canon5DMark、  
NiKonD300、NiKon D700)

**【寸評】**画面の中でマンタがダイナミックに表現されています。泳いでいるマンタの撮影は、タイミングがとても大切。撮影者はとても上手くマンタの行動を把握されていると思います。また、1位の決め手となったのは、太陽の位置。マンタの頭部の後方にあるため、神々しさを演出しているように思われます。素敵な作品です。おめでとうございます。

2位

## 「生命のゆりかご」

島田 芳宏



**DATA**  
カメラ：ニコン D700  
レンズ：14-24mm  
ハウジング：アンティス D700  
露出モード：絞り優先オート  
絞り：11  
ストロボ：自然光

**商品**  
バヌエーヨットスミランクルーズ 無料乗船券 / 1名。利用期間：2009年11月11日～2010年3月8日発までの航海。ただし繁忙期、チャーター期間は除く。

**【寸評】**海中写真ではないような不思議な雰囲気の商品でした。画面いっぱいに藻場を映し込むことで、春を感じさせてくれます。浮遊するクラゲも太陽の光を楽しんでいる感じがします。また、水面に映った緑の模様が万華鏡のようで、とても美しいです。おめでとうございます。

3位

## 「銀の突進」

小山 義光



**DATA**  
カメラ：Pentax K20D  
レンズ：フィッシュアイ  
ハウジング：DIV HANDS 製  
露出モード：プログラムオート  
絞り：4.0  
シャッタースピード：1/180  
ストロボ：INON D2000×2灯

**商品**  
INON ストロボZ-240 / 1名

**【寸評】**マラトウア チャネルのバラクーダの大群を上手く撮影され、その素晴らしい表現されていると思います。この群れは形の変化をちゃんと予測しないとなかなか良い作品を撮ることができません。群れの全体を確認しつつ、抜群のタイミングでバラクーダの進行方向に接近されていると思います。おめでとうございます。

# デラワン・サンガラキクルーズ フォトコンテスト2009

結果発表！

参加賞・参加者全員

鍵井 (審査員) 賞

## 「カカバン魔法の宮殿」

熊谷 道代

**DATA**  
カメラ：オリンパス E-520  
レンズ：8mm フィッシュアイ  
ハウジング：PT-E05  
露出モード：プログラムオート  
絞り：3.5  
ストロボ：オリンパス UFL-2×2灯

**賞品**  
カレンダー



**【寸評】**このような視点から水中写真には大切だと思います。この湖は、クラゲばかりでなく、マングローブの木陰とカラフルな海綿なども魅力のひとつだと思います。そこに着目したとても素敵な作品だと思います。おめでとうございます。

鍵井 (審査員) 賞

## 「寄り添って」

山崎 めぐみ

**DATA**  
カメラ：オリンパスμ780  
露出モード：オート

**賞品**  
カレンダー



**【寸評】**いつも私たちが撮影する構図ではない作品。まるで森の中をデートするようなニシキテグリの様子がとても微笑ましく思えました。今後の私の撮影に活かしたい素敵な作品でした(笑)。おめでとうございます。

WTP 賞

## 「艶美」

熊谷 光剛

**DATA**  
カメラ：オリンパス E-520  
レンズ：ED50mm F2.0 Macro+1.4 Teleconverter  
ハウジング：PT-E05  
露出モード：マニュアル  
絞り：2.8  
ストロボ：オリンパス UFL-2×2灯

**賞品**  
折りたたみメッシュバック



**【寸評】**なかなか目にする事のない固有種のデラワンブレニーの独特な顔のアップがとても目を引きました。動き回る被写体をクローズアップして撮影するのは大変だったかと思いますが、アライインのような目の周りの模様がとても綺麗に出ていますし、被写体の立体感もあってとてもよいと思います。おめでとうございます。(WTPスタッフ)

アジア最後の秘境クルーズはいかがですか？

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配布および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Derawan Sangalaki Cruise  
Web-lue 2010. Winter



Information Link <http://www.wtp.co.jp/area/derawan/index.html>